

フィンドレー大学への交換留学 月例報告書2月分

2月の活動報告書です。1月に引き続き、たくさんの方に挑戦でき充実した一ヶ月でした。「やりたい！」と声をあげて、知らない場所へ飛び込み人々と新しいつながりをつくることができました。主に3つの活動について今回は書きたいと思います。

一つ目は University of Findlay Service Ambassador としてコミュニティへのボランティア活動に参加しました。この活動は本来なら秋学期から活動が始まる予定でしたが、様々な問題があり今学期からの活動となってしまいました。今回は介護施設へ訪れ、バレンタインデーのイベントの準備を手伝いました。いつもの通りアメリカ流なので、事前の連絡はなし、その場に行って初めて活動内容を聞かされ、自分で考えて動かなければなりません。周りを見て臨機応変に対応しながらイベントの準備を進めていきました。最初はうまくコミュニケーションが取れず右往左往するばかりでしたが、自分から笑顔で話しかけることを心掛けました。最初は無表情だったお年寄りの方も最後には満面の笑みと「素晴らしい時間をありがとう。次はいつ来るの？」という言葉がとても嬉しかったです。

二つ目は Findlay High school で行われた World Heritage Night のイベントに参加したことです。日本人留学生のみならず、ソーラン節を披露しようと決まりましたがみんなをまとめるリーダーがいまいませんでした。そこで私が立候補し大学の先生、Findlay High school の先生との連絡係、練習の日程調整を行いました。一番苦労したのはチームのモチベーションを保つことでした。春学期になってから皆がそれぞれ Undergraduate のクラスをとるため秋学期と比べて格段に忙しくなりました。このイベントへの参加はもちろん強制でもなければ、好きだからやるクラブ活動でもないのが最初はやる気があった人達もどんどんやる気がなくなってしまっていました。さらに、アメリカあるあるの予定がすぐ変更になる点も皆にとってストレスになっていました。そのようなばらばらの方向を向いている人たちをまとめ、イベントを成功させるために私は「コミュニケーション」を意識しました。なぜ、このイベントが大切なのか、私たちが参加する意義や意図を明確にする必要があると考え高校の先生に尋ねてみんなにシェアしました。その中で、みんなの協力が得られるようになりそれに支えられながらリーダーとしての役割がしっかりと果たすことができました。当日は約300人の人々が参加するイベントでしっかりとパフォーマンスができました。このイベントでは約20カ国のブースが出されており、パフォーマンスの他、各国の伝統料理が提供されました。このコミュニティの多様性に驚くと同時に、日本では絶対に味わえない一度にいくつもの多文化が混ざる時間を思いっきり楽しむことができました。

最後は International Mother Language Day のイベントに引き続き日本人留学生のリーダーとして、また今回はイベントの進行をする MC にも自分から「やりたい」と声をあげて挑戦しました。イベントはバングラデッシュの歴史的背景がもとなっているとは知らず、MC に立候補したことによりイベントの企画、運営にも一人だけ日本人が混ざって参加するということになりました。(それに気づいたときはとても焦りましたが、バングラデッシュ人のみんなが歓迎してくれたので頑張ろうと決めました。)しかしここではバングラデッシュ人の価値観に大いに振り回されました。特に企画をする段階では、パフォーマンスをする人を集めないといけないのですがそれが3日前になっても決まりません。私は3日前に出演のオファーを出しても出てくれる人はいないから現段階のもので決定し、MC の原稿の作成、音楽の準備など次に進めていこうと提案しましたが受け入れてくれません。勿論、パフォーマーが多いほうがいいのは私もわかっていますが時間を考えるともうタイムリミットというのが私の意見でした。(アメリカ流に慣れてきたとはいえやはり本質は事前にしっかり準備する日本人の性格です。)それでもバングラデッシュ人は「一番いいものを作り上げるために、時間は気にせずにどんな変更も厭わずにしていこう。」という姿勢が感じられました(この点はとてもアメリカ人の考えに似ています)。結局、MC の原稿は当日の朝にやっと完成しました。しかし、イベント中でもトップバッターのパフォーマーが時間通りに現れないなどトラブルが続出です。どうしたらいいか決めかねていたら、バングラデッシュ人は大したことなくともいうように臨機応変に判断、対応していました。やはりこのようなイベントでイレギュラーなことが起こった場合、失敗を恐れて判断が遅くなってしまいがちな私ですが下した判断が良い方向に行こうとも、悪い方向へ行こうとも進んだ先で何とかする力をバングラデッシュ人の人たちから学ぶことができました。そこから、私も負けてられないと臨機応変に意見を出しあい、イベントを企画、運営する一員としての役目をしっかりと果たすことができたと思います。最後には「あなたが MC として参加してくれて本当に嬉しかった。」とバングラデッシュ人の人から声をかけてもらったり、イベントの次の日にもアメリカ人の全く知らない学生から「君たちのパフォーマンス最高だったよ。」と声をかけられました。とても大変なイベントでしたがたくさんの学びができました。

2月「やりたい!」と声をあげることの大切さを強く実感しました。声を出すことで知らなかった世界の扉を開き、知らなかった人々に出会うことができ新たな繋がりが生まれます。自分の中の世界がどんどん広がっていく感覚がとても楽しく、もっともっとと欲

張っているところです。3月はどんな世界がまっているのか今からとても楽しみです。



University of Findlay Service  
Ambassador の活動



World Heritage Night のイベント



International Mother Language Day  
バングラデッシュ人の友達たちと



サンクスギビングでお世話になった友達の祖父母の方が日本食レストランに連れて行ってくださいました。この繋がりを大切にしたいと思いました。